第 17 回日本在宅医学会もりおか大会　**一般・指定演題**

（実践報告）抄録用紙

演題名 （全角 80 字以内）	山間部総合病院における円滑な退院支援を目指して -縁側の会　活動報告-
演者名	小野　節子 1)　鈴木　真紀子 1)　杉木　千浪 1) 荻野　秀樹 1)　鈴木　諭 2)　原田　孝 1)3)
所属	1) 利根中央病院　地域連携相談支援室 2) 利根中央病院　総合診療科 3) 利根中央病院　内科

目的　当院は群馬県北部の山間地域に位置する高齢・過疎・人口減少地域である沼田医療圏に位置する。地域の中核医療機関として主に急性期医療を担う当院において、この間地域連携相談支援室(以下相談室)が中心となり、顔の見える院内連携の促進と円滑な退院支援の実施を目的とした多職種参加型の定期勉強会(以下縁側の会)を開催してきたので、ここに報告する。

実践内容　縁側の会は 2 ヶ月に 1 回、多職種参加の下に開催される症例検討とグループディスカッションを中心とした参加型の勉強会である。事例提示は関連各部署が交代で行い、事例に関連した内容の学習を行っている。これまで開催された縁側の会の内容は、ターミナル患者の自宅退院支援(退院調整看護師)、難病患者に行った精神的援助(リハビリテーション科)、介護保険制度(介護支援専門員)、退院後の在宅療養(訪問看護師)等である。

実践効果　縁側の会を定期開催して行く中で、関係各部署が業務内容や実践を共有する事で、多職種間の役割を再認識する事ができ、より効果的な退院調整が行える環境が整備された。定期開催開始後、退院支援が必要な事例に対するより早期の介入が可能となった。相談室相談件数は年間 5000 件を超えた。相談内容は在宅ケア 17%、退院後療養環境 27%、現療養環境 28%等であり、退院支援先は在宅 29%、病院 57%、その他施設 14%であった。

考察　縁側の会を定期開催して行く事で、退院調整が必要な患者に対する適切かつ早期の退院調整介入の必要性の認識が広まった。退院調整に関わる各部署が交代で事例検討を担当する事で、担当者自身が事例の振り返りを行い課題の整理を行えた。縁側の会は多職種参加型で参加しやすい開催形態を模索しているが、現状は参加者の職種に偏りが見られ、同一法人からの参加に留まっている。今後、地域における退院支援の強化に向けて、開催形態や参加者について検討が必要と考えられた。